

雄阿寒岳 概要

雄阿寒岳（1371m）は、阿寒湖の東部にある山です。阿寒エリアを見渡す壮大な景気が登山客に人気で、阿寒摩周国立公園を象徴する山の1つでもあります。山頂からは、阿寒カルデラやカルデラが形作る湖を一望できます。

昔、カルデラには大きな湖が1つありました。しかし、約1万年前に幾度にもわたる噴火と溶岩が雄阿寒岳を形成し、湖も小さく分離していきました。その湖の中でも最も大きいのがパンケトーとペンケトーです。

北海道の土着民族であるアイヌの人々は、雄阿寒岳を「男の山」という意味を込めて、「ピンネシリ」と呼んでいました。日本では、その形状に応じて山を男や女として捉えることがあります。雄阿寒岳には円錐状の山頂が1つあるのに対して、南西部にある雌阿寒岳（アイヌ語で「マチネシリ」）には2つの異なる山頂があります。そのため、雌阿寒岳は女の山として考えられているといえます。

雄阿寒岳の山頂に続く登山道は1つだけで、雌阿寒岳の山頂に向かう道と比べると、はるかに難易度が高いコースで、登山経験がある方や体力に自信のある方向けの登山道となっています。

雄阿寒岳 登山道

パンケトー湖、ペンケトー湖、阿寒湖を含めた阿寒エリアを見渡せる雄阿寒岳への登山は、素晴らしい体験を提供してくれます。登山道の入り口は阿寒湖の東端、国道240号線のすぐそばにあり、最初は緩やかな登りから始まります。その後の数百メートル、コースは阿寒湖の東海岸に沿いながら曲がっていき、太郎湖と次郎湖という小さな二つの池の間を抜けていきます。もし雄阿寒岳の山頂まで登る時間がないのであれば、美しい景色が広がる次郎湖までの登山道を歩いてみるというでしょう。所要時間は往復約40分となっています。

次郎湖から先の道は、針葉樹や広葉樹が生い茂る森となっており、勾配も急激に厳しくなります。そこでは、アカエゾマツやトドマツ、ダケカンバを目にすることができます。アカエゾマツとトドマツはその針葉によって見分けることができます。アカエゾマツの葉は短く尖っており、トドマツの葉は柔らかく平らなのが特徴です。

1200m あたりから、登山道は平坦になり、森の木々も少なくなっていくます。そして、背の高い樹木が広がる景色は小さなカサマツの景色へと変わっていきます。そこからコースはなだらかになり、阿寒湖や雌阿寒岳の景色を楽しむことができるでしょう。6月から7月は、紫の花弁

を持つハクサンチドリやスカズラ、白色の花弁が特徴的なグリーンランドモスなどの最盛期です。さらに、8 合目まで登ると、軍の気象観測所の跡地として残された石の柱と建物の基礎を見ることができます。この場所は 1944 年から 1946 年にかけて軍用機のための高所気象観測所として使われており、今は一息つくのにちょうど良い場所です。

8 合目から雄阿寒岳の山頂までは約 20 分です。山頂からの景色は陰しい登山のご褒美になるはずです。

滝口

阿寒湖の東端にあるこの小さな堰堤は、阿寒川の源流であり、雄阿寒岳に続く登山道の入り口でもあります。コースの初めには登山届所と熊注意の看板が設置してあります。登り始める前に、しっかりと届けを提出するようにしましょう。滝口は阿寒湖を望むことができる絶景スポットです。夏にはダム近くの湖畔にピンクや紫色のシャクナゲが咲き、秋には木の葉が鮮やかな色に染まります。

滝見橋

秋、滝見橋は綺麗な紅葉を目にすることができる有名なスポットです。場所は雄阿寒岳へ続く登山道沿いではないものの、国道 240 号線の分岐を車で数分進むことでアクセスできます。橋は阿寒湖と太郎湖の水が流れる阿寒川に渡されており、赤色や黄色に染まった楓や桂の葉が川を埋め尽くす 10 月初旬から中旬の景色が見頃です。